

I 令和5年度 事業計画

1. 基本方針

この3年間は否応なしに新型コロナウイルスとの対峙を強いられてきました。社会構造的にも人と人との関わり方が大きく変わる中、犬に対する精神的・社会的ニーズは間違いなく高まってきており、当協会が新たなニーズに応えていく必要性を考えさせられることも多くなっています。

そのような状況の中、昨年度からは当協会の事業理念である「人にも動物にもやさしく楽しい社会をめざして」に加え、私たちの目標として「介助犬とともにいつでもどこでも一緒に暮らせる地域共生社会の実現」、基本姿勢「犬の可能性を信じ、一人ひとりのニーズに寄り添って歩む」、そして社会的役割と価値「人と犬を繋ぎ、和を創るプロフェッショナル集団である」を掲げて歩み始めました。

また、3年越しで査察を受けることが出来た ADI(Assistance Dog International)にも日本独自の身体障害者補助犬法のことを紹介するとともに、法にとらわれない犬へのニーズに応えている当協会の事業を紹介することができ、コロナ禍にあって実りある3年間にもなりました。

今年度はSDGsを念頭に、当協会の事業がどのように持続可能な社会の仕組みに関わっているのかを整理し、with コロナのなか新たな気持ちで事業に向き合う1年にしていきたいと考えています。

物理的に対面して寄り添えない時にどのように心を近づけ、犬を介して人を勇気づけたり癒したりすることが出来るのか、私たちは社会に何を求められているのか、職員一人一人がどのような姿勢で協会事業に関わり続けるのか。これまでの形にこだわることなく新たな進化を遂げ、発展し続けることが持続可能な事業展開に求められることと考えると思います。

具体的には、以下の点に取り組んで参ります。

1. 職員の自律性を重んじ、各々のライフステージや生活スタイルが変わっても、働き続けやすい職場を目指して新たな人事体制を構築する。
2. 介助犬と同様に、DIなど、犬に求められる社会的ニーズに応える事業を安定的に提供・拡充する。
3. 職員の健康と安全を継続して確保するため、各人のニーズに基づいた福利厚生を充実させる。
4. 人財養成の観点から、キャリアパスの具体化や人材発掘のための研修生制度のあり方を検討する。

理事長 伊藤利之

2. 取組事項

1. 介助犬育成事業

リハビリテーション専門職と連携を図り、介助犬希望者に対して個々の障がいにあった介助犬を提供する。介助犬総合訓練センター～シンシアの丘～に於ける体験・合同訓練および在宅訓練の指導を行う。

(1) 肢体不自由者に対する介助犬貸与

介助犬を育成し、1～3名の肢体不自由者に対し介助犬の貸与を目指す。

(2) 犬の飼育及び訓練

① 18頭(内、新規訓練犬8頭)の訓練犬に対し、評価及び訓練を実施する。

② パピーに対する訓練及びパピーホームボランティアに対して預かり訓練、訪問指導を実施する。

③ 一時預かりボランティアに対して、犬の飼育レクチャーを実施する。

(3) 繁殖・犬導入

① 1～2回の出産を行い、6～12頭のパピーを確保する。

② Career Dogs Australia よりパピー3～5頭と凍結精液を導入する。

③ 6頭の繁殖犬(雄3頭、雌3頭)を確保する。(新規1頭)

④ 犬山動物総合医療センターの協力のもと、1～3回内視鏡による人工授精を実施する。

⑤ 岐阜大学の協力のもと、凍結精液を作成する。

(4) 介助犬使用者に対する継続指導

① 介助犬使用者15名に対し、継続指導を行う。

② 「使用者の集い」を開催する。

(5) 介助犬使用者に対する就労・継続支援

介助犬使用者の就労希望に対し、就労支援機関と連携を取りながら個々に合わせた就労・継続支援を行う。

2. 普及啓発・広報活動

介助犬・身体障害者補助犬法の認知度向上および寄付収入確保を目的に、普及啓発・広報活動を展開する。

介助犬希望者・個人支援者・支援団体企業、マスメディアなど、対象者ごとに必要な情報が提供出来るよう、情報の内容・形態、広報媒体の最適化を図る。

(1) 普及啓発イベント・講演会の開催

① 介助犬フェスタ 2023 を開催する。

4月6日(木)開催で計画し、新たな試みとして、愛・地球博記念公園での現地会場と併せてオンライン配信を行うハイブリッド形式として開催する。

② 介助犬キャラバンでの活動を行う。

介助犬の啓発と介助犬使用者の発掘を目的にしたキャラバン隊を組み、特定の地域を回りながら、介助犬の認知度向上を目指す。第2回目の地域は、四国4県(愛媛・高知・香川・徳島)とする。

③ 啓発活動の継続実施

・イベント／講演会

社会情勢に応じて、対面型とオンライン型のイベント実施を継続する。オンライン型イベントを積極的に導入・活用し、全国にも配信を拡大する。

・肢体不自由者への啓発

以下の福祉機器展にて啓発を行う。

ヨコハマヒューマンテクノロジー2023 :開催日・会場未定

バリアフリー2023 : 4月19日(水)～21日(金)開催予定 (インテックス大阪)

国際福祉機器展2023 : リアル展示 9月27日(水)～9月29日(金) 東京ビッグサイト

・「はたらくワンワンランド」参加

「ガンバレ！介助犬！JA共済はたらくワンワンランド」へ参加する。

・企業連携企画の実施

菅野智之投手(介助犬サポート大使)および読売巨人軍とタイアップし、介助犬の認知度向上につなげる。

他企業・団体とのタイアップの拡大を図る。

(2) 普及啓発募金活動

本部およびセンター近郊で地域に根付いた啓発を行うため募金活動を実施する。

(3) PR犬の育成・訓練

啓発活動を行うPR犬の育成・評価、訓練を行う。

(4) マスコミ対応

新聞やテレビ番組などのメディアに対し映像・写真素材の提供を行う他、積極的にメディア露出できるようプレスリリースを行っていく。各種メディア掲載実績をホームページで公開する。

(5) 会報誌・ホームページ、その他制作物を活用した広報展開

① 魅力ある会報紙面・ホームページの更新を行い、支援者維持・獲得へ繋げる。

② CSR冊子を更新し、企業へのアプローチを強化する。

③ 募金箱の追加制作に伴い、形状や用途を検討し設置場所の拡大に努める。

(6) SNSの活用

Twitter / Facebook / Instagram / YouTube / noteの各特性を活かした情報を発信し、支援者とのコミュニケーションを図り新たな支援者獲得を目指す。

(7) リハビリテーション専門関連学会、獣医療関連学会へのブース出展等

リハ専門職の介助犬への理解を深めるため、関連学会へのブース出展、デモンストレーション等の機会を得る。

【学会一覧】

参加予定

学会名	日程	開催地
第58回 日本脊髄障害医学会	2023年11月16日(木)～17日(金)	ソニックシティ(埼玉県)
第11回 慢性期リハビリテーション学会	2023年10月19日(木)～20日(金)	大阪国際会議場(大阪府)
第15回 日本身体障害者補助犬学会	未定	未定

参加検討中

学会名	日程	開催地
第60回 日本リハビリテーション医学会	2023年6月29日(木)～7月2日(日)	福岡国際会議場(福岡県)
第57回 日本作業療法学会	2023年11月10日(金)～12日(日)	沖縄コンベンションセンター(沖縄県)
第58回 日本理学療法学会大会	2023年5月27日(土)～28日(日)	オンライン参加(予定)
リハビリテーション・ケア合同研究大会 2023	2023年10月26日(木)～27日(金)	広島国際会議場(広島県)

(8) ボランティア向け講習会・交流会等を実施する。

3.公益的な活動

- (1) 聖マリアンナ医科大学病院へ3頭目の勤務犬貸与、およびハンドラーへの継続指導を行う。
- (2) 楓の丘こどもと女性のクリニックへの2頭目のDI犬貸与、それに伴うハンドラー養成を行う。
- (3) 聖マリアンナ医科大学病院、箱根病院、野のすみれクリニック、千葉リハビリテーションセンター、児童相談所一時保護所(名古屋市、川崎市)、にてDI活動を実施する。
- (4) With You プロジェクトとして、障害児・者等のいる家庭に対して、生活しやすくニーズに合わせたキャリアチェンジ犬の譲渡を行う。
- (5) 子ども支援センターつなぐからの付添犬派遣要請に応じる。
- (6) DIを希望する専門職・専門機関からの相談に応じると共に、DI活動についての情報発信を行う。

※DI:Dog Intervention(特別に評価及び訓練をした犬を医療現場等に介入させること)

4.相談事業

介助犬希望者がより正確な情報を得られるように、体験会・相談会、体験入所等のプログラムの充実を図る。

- (1) 介助犬希望者
 - ① 介助犬に関心のある障害者を対象に対面、またはオンラインにて相談会を実施する。
 - ② 介助犬希望者宅への訪問相談・調査を実施する。
 - ③ 介助犬希望者・待機者を対象に体験入所等を実施する。

5.調査研究

障害者が介助犬等との生活をより円滑に送るための研究調査を行う。

(1) 各学会への参加、演題登録

第 15 回日本身体障害者補助犬学会等への参加、学会団体会員として一般演題発表等を行う。

(2) リハ専門職等との補助具の開発

横浜市総合リハビリテーションセンター等のリハビリテーション工学士・企業と介助犬使用に関する補助具の研究を行う。

6.関係団体協力

良質な介助犬を育成するため、関係団体と訓練犬確保、繁殖情報の交換や繁殖協力関係の強化を図る。その他犬の活躍の場となる関係団体からの協力要請に応じる。

(1) 補助犬育成団体との連携

① 日本盲導犬協会、北海道盲導犬協会、関西盲導犬協会、九州盲導犬協会、東日本盲導犬協会等との繁殖、キャリアチェンジ犬の導入、研修先としての団体間の関係継続に努める。

② 日本身体障害者補助犬学会へ団体会員として加盟する。

(2) 諸外国の補助犬団体との連携強化

諸外国の補助犬団体と、介助犬の育成や繁殖事業に関する交流を充実させる。

① 9 月にクロアチア(ホスト:Centar za rehabilitaciju Silver)にて開催される ADI(Assistance Dogs International)カンファレンスに出席する。

② 英国の Guide Dogs for the Blind Association 等を視察する。

③ Career Dogs Australia と繁殖情報の共有を行う。

④ ADI(Assistance Dogs International)各種委員会への参加検討

⑤ 国際関係担当部署設置の検討

(3) 医療・福祉・行政等との連携強化

7.補助・助成申請

(1) 令和 5 年度

【決定】

① 全国生活協同組合連合会:250 万円

教職員共済生活協同組合:250 万円

全国労働者共済生活協同組合連合会:100 万円

【事業名】障がい児・者や困難を抱える子どもを対象とした Dog Intervention(犬の介入)による支援活動の拡充

【申請中】

- ① 愛知県共同募金会:(申請額)170 万円

【事業名】肢体不自由者をサポートする介助犬ならびに医療機関・児童相談所等への介入を行う DI 犬の訓練のための犬用運搬車両の更新

【申請予定】

- ① 中部ウォーカーソン
② 愛知県内における介助犬啓発事業(補助金収入(公))
③ 長久手市ふるさと応援活動支援事業(補助金収入(公))

8. 管理・運営

(1) 理事会・評議員会の開催

令和 5 年度定時評議員会にて任期満了を迎える理事・監事・会長・副会長・顧問・第三者委員の改選に必要な手続きを進める。

(2) 寄付収入および賛助会員数増加施策の検討・実施

安定した事業運営基盤の確立に向け、寄付収入および賛助会員数増加のためのファンドレイジング施策・コミュニケーション施策を検討、実施する。

- ① 法人会員・法人支援者へのアプローチ回数を増やし、新規支援の獲得を目指す。
② 口座振替やクレジットカードでの継続支援会員の増加を目指し、賛助会員の新規入会促進施策を検討、実施する。既存会員の継続のため会報やメールでのニュースレター配信等を通じた会員とのコミュニケーションの充実を図る。
③ 収益事業を充実させる。
④ キャッシュレス時代を鑑みた収入の確保について更なる充実を図る。
⑤ 寄付付き自動販売機の導入を促進する。

(3) 年間行事の実施

- ① 感謝の集い～認定報告会～ 5 月 21 日(日)に実施する。
② 「使用者の集い」 10 月 28 日(土) 愛知県にて実施する。
③ 「慰霊祭」 10 月 29 日(日) 実施する。

(4) 計画的な施設保守・営繕の検討・実施

介助犬総合訓練センターの建物・備品維持保全にかかる新たな改修計画策定に取り組む。旧ドッグランの活用や、避難時の安全な経路確保について実施する。
保有車両について、経過年数や走行距離に基づいて計画的な購入や保守を検討する。

(5) 業務効率化とコストダウン施策の検討・実施

限られた経営資源を有効活用するため、業務の見直しを図り業務効率を向上する。併せて、経費節減施策を検討、実施する。

(6) 職場環境の整備

- ① 職員の働きやすさを実現するため、就業環境の見直し、整備を行う。
② 労災被害予防、健康増進教育等のニーズを聞き取り、新たなサービス導入を検討する。

(7) 目標設定・人事評価システムの活用と、連動したキャリアパスの作成を行う。

9.人材育成・研修

(1) 訓練技術向上

飼育管理担当者、パピー担当者等のすべての訓練部職員が OJT により犬のハンドリング技術の向上を目指す。また、目指すゴールの明確化、訓練犬の評価方法の見直しを図り、訓練技術向上に努める。

① 訓練士の育成

訓練担当者への OJT の他、合同訓練の見学の機会を与え、目指すゴールの共有化を図る。

② Ultimate Dog Training Japan, Marina Rodriguez 氏よりトレーニングに関する研修を引き続き受講する。

(2) 研修

① リハビリテーション関連、犬関連に関するセミナー等を受講する。

② 広報活動に必要な技術向上のため、セミナー等へ派遣する。

③ 目標設定研修を引き続き実施する。

10. 研修生制度

今年度は実施せず、引き続き研修生制度については検討を重ねる。